

The 24th International Costume Congress
Creative Costume Exhibition 2010

TSURU—Dancing Cranes

Sachiyo IZUMIYAMA



The 24th International Costume Congress
Creative Costume Exhibition 2010
Date: 24-25th August, 2010
Venue : National Museum of Korea, Seoul



Dancing Cranes

This is a formal dress created by rearranging an Uchikake – a traditional Japanese bridal kimono from approximately half a century ago – in a contemporary style. Made of ornate silk fabric woven thickly in the Karaori Japanese style, the dress is characterized by its pattern of dancing cranes, which is an auspicious motif. The hardest part of its creation was deciding the layout of the cranes when turning the kimono into a dress. The key point of the design is the large tuck at the hip of the skirt to reflect the image of a crane spreading its wings. The designer hopes a modern woman will wear this half-century-old reformed bridal costume again for her wedding.

「舞い鶴」

このドレスは、約半世紀前の日本伝統花嫁衣裳“打掛（うちかけ）”を現代風にアレンジしたフォーマルドレスである。素材はシルク地の唐織（からおり）の織物で、吉祥文様である鶴（複数）の舞う姿が特徴である。

最も苦心したところは、“きもの”の形からドレスへ変化させるとき、鶴（複数）をどの位置に配置するかであった。また、デザインのポイントは後スカートの腰位置（ヒップ）に、鶴が羽ばたくイメージで大きなタックを取ったことである。

形を変えた半世紀前の打掛を、現代女性が結婚式の衣裳として着用してほしい。

「吉祥文様—鶴文（つるもん）」

きもの文様は日本の四季それぞれにみられる植物や動物、自然現象をモチーフとする文様が多くみられる。この四季文様と呼ばれる季節感の表わす以外のきもの文様として、吉祥文様が様々な形で意匠化され、きものを飾っている。吉祥文様は“おめでたいこと”を求め、喜びを視覚化したものである。幸せを祈り祝う心は、人間が本質的に持っている基本的感情であり、それを身につけるきもの文様に吉祥の意味合いを含ませたのである。

古くから、鶴は日本人の心情に寄り添う鳥である。立ち姿も飛び交う姿も、優雅で華麗であり気品がある。そして長寿をあらわす吉鳥でもある。特に空中をゆったりと舞う鶴の飛姿は見事である。今回の作品に使用した打ち掛け“朱赤地飛鶴文様”は、約半世紀前の婚礼衣装であり、大きく舞う鶴を現代のドレスにどのように配置するかが難しく、また同一方向文様ゆえの苦心もあった。この鶴文の打ち掛けは、右上写真の「緋朱色金通し地群鶴文振袖」の吉祥鶴文をイメージしながら探し、選定した。



第24回国際服飾学術会議に参加して

第24回国際服飾学術会議は韓国服飾学会の主催により、アジア圏を中心とした服飾研究者が多数参加して、2010年8月23日から26日まで、韓国ソウル市の国立中央博物館にて開催された。国際服飾学術会議は1982年に台北で開催された第1回アジア服飾研究会にはじまり、第8回から国際服飾学術会議と名を改め、繊維産業とともに学問としての服飾分野の隆盛に貢献している。四半世紀を超えた（毎年開催ではない）国際服飾学術会議は、デンマーク・コペンハーゲンでの第15回から口頭による研究発表に加えて、衣装展示発表による“創作衣装展”が設けられた。

今回の国際服飾学術会議には日本の国際服飾学会から49名の会員が参加し、厳正に選出され





た口頭発表3件（全体16件）、ポスターセッション18件（全体78件）、創作衣装展15件（全体99件）の研究発表がされた。基調講演はDr. Jessica Bugg（London College of Fashion）“The Shifiting Focus:Culture,Fsahion & Identity”であった。

“創作衣装展”は23日10時からオープニングセレモニーではじまり、韓国国立中央博物館の広い窓面のある会場2箇所にて、99件の作品が国別に展示された。日本の家政系、服飾系大学の被服造形実習担当教員とともに筆者の作品も展示となり、各国民族衣装の伝統を組み入れた作品が目立つ大会でもあった。

参考文献

2010 24th International Costume Congress: : The Korean Society of Costume
 きもの文様：長崎 巖，平凡社，2005年